

「木造船が次々上陸していますが何を意味しているのでしょうか？」

平成 29 年 12 月 5 日

●三毛猫さんからの質問

ここ数カ月間に北朝鮮船籍と思われる木造船が次々上陸していますが何を意味しているのでしょうか？国連決議や中国による経済制裁による北朝鮮国民の疲弊も関連していると思われませんが半島有事における大量の難民流入における危機管理として政府はどのような対応を講じていますか？有事における日本海の警備体制を強化すべきでは？

●西田昌司の答え

私も木造船のニュースが気になっていますし、小野寺防衛大臣とこのニュースに関連するお話を先日したところです。

北朝鮮は外貨稼ぎのために自国の沿海の漁業権を中国に売っているので、北朝鮮の漁民は沿海よりももっと遠くの日本海側に出てこないと漁ができないという状況となっていますが、北朝鮮の木造船は 10～20 メートル程度の貧弱なものと聞いていますし、そのような船で日本海の荒波を超えるのは大変な困難を伴います。

彼らはそうやって日本の領海でイカを釣っていて、それ自体はもちろん違法行為なのですが、釣ったイカを温度コントロールして貯蔵する技術も装備もなく、釣ったらすぐに内臓を取り出して干してスルメにする以外にないという操業をしているそうです。北朝鮮の人民の哀れを感じてしまいますが、そうやって外貨を稼いで、それが結局はミサイル開発の資金に回されているとなるとこれは日本にとって大きな問題であります。

日本海の警備は海上保安庁が行っていますが、不法な漁業監視をするような場合は巡視船ではなく買い上げた漁船を活用しているそうです。そのような漁船にはしっかりとした装備もなく、武器といってもピストルもなくてこん棒程度しかありません。そのような装備でピストルを持った相手にでも遭遇したら大変なことになりますし、もっと予算を付けてしっかりとした体制にしなければなりません。

現状はそのようなお粗末な海上警備となっていますが、そこに北朝鮮の漁船が現れた場合、放水機で水を相手にかけるそうです。そうするとせっかくのスルメが台無しとなりますし、今まではそうやって違法操業を止めさせて北朝鮮へ追い返していたのですが、最近は冬場の偏西風に流されたからかどうかはわかりませんが日本の東北や北海道の海岸にまで辿り着いてしまっているというわけです。

北海道の松前小島という無人島には避難用の小屋があり、そこに家電製品、水、燃料等が漁協によって備蓄されていますが、先日、ここに北朝鮮の木造船がやって来てそれらを盗み出すというニュースが報道されました。狙ってやったのか、あるいは、たまたま漂着したのかはわかりませんが、北朝鮮は国家を挙げてコソ泥のようなことをさせていますし、それほど北朝鮮は困窮していることが窺われます。あのボロボロの木造船の様子がそれを物語っています。

自国の経世済民などかなぐり捨てて金王朝を存続させることだけに腐心する金正恩体制は本当に問題ですが、あのような体制は普通は長くは続かないものですし、これから先どれだけ持つかわかりません。彼らに圧力をかけて方向転換をさせなければなりません、実際は簡単にはいかないでしょう。彼らは、圧力にさらされながらも何とか核保有国にまで辿り着けば世界に伍して経済援助も受けられるようになるし、核武装によって金王朝の不滅が約束されると踏んでいるからこそ躍起になっているのです。

冷戦時、アメリカとソ連という2つの大国が大量の核を保有してにらみ

合っていましたが、結局はソ連の側が軍拡競争に付いていけなくなって共産主義を放棄し、ソ連が崩壊しました。あのまま続けていけば国民生活が破綻してしまうという認識がソ連の側にあったのですが、我々は冷戦終結を1つの事例としてしっかりと研究して、北朝鮮に対しても何とか暴走を止めさせるよう知恵を絞らなければなりません。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>